



最先端技術の早期装備化に向けた取組

～最先端の技術を明日の国防に活かす～

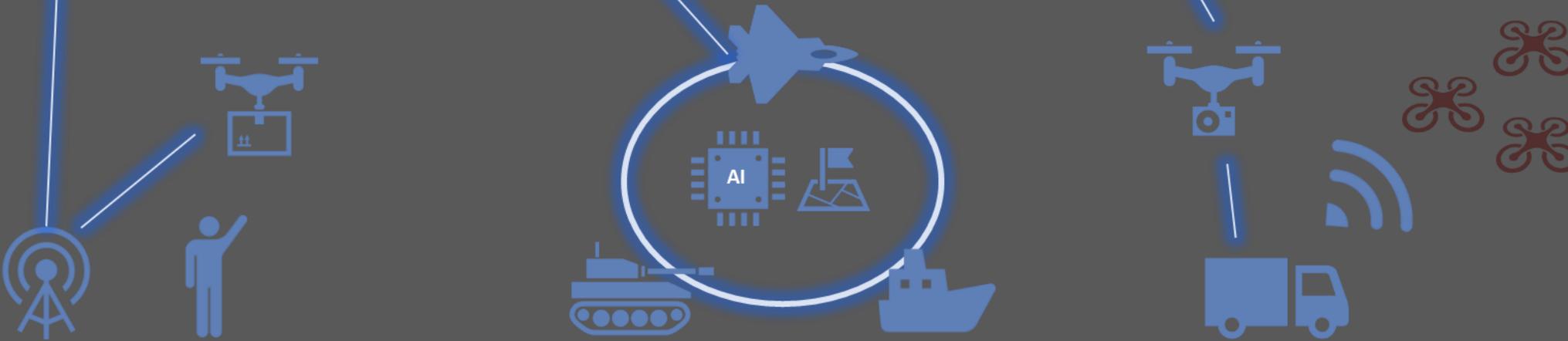


提案募集中の分野や
お問い合わせ先 ⇒



https://www.mod.go.jp/j/budget/rapid_acquisition/index.html

防衛省 –Ministry of Defense, Japan–



民生先端技術等を画期的なスピードで防衛力に取り込み、「新しい戦い方」に備える

先進的な技術に裏付けられた新しい戦い方が勝敗を決する時代において、先端技術を防衛目的で活用することが死活的に重要となっている。

国家防衛戦略（令和4年12月16日 国家安全保障会議決定及び閣議決定）P12

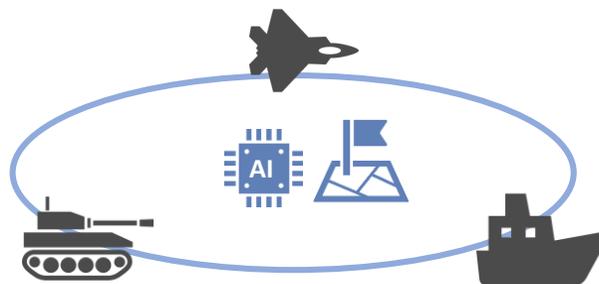
【例1】 無人アセット

無人機を用いた情報収集・警戒監視・物資輸送・攻撃等



【例2】 AI

AI等を用いて指揮統制



【例3】 次世代情報通信

多種多数のアセットが
低遅延・高速かつ抗たん性のある形で接続



民生先端技術等を用いた「新しい戦い方」の例

「新しい戦い方」に必要な民生先端技術等を
「早く」取り込むために

- スタンド・オフ防衛能力、海洋アセット、ソフトキル、無人アセット防衛能力、人工知能（AI）、次世代情報通信、宇宙、デジタルトランスフォーメーション（DX）、高出力エネルギー、情報戦といった分野のほか、自衛隊の現在及び将来の戦い方に直結し得る分野のうち、特に政策的に緊急性・重要性の高いものについて、防衛関連企業等から提案を受けて、又は、スタートアップ企業や国内の研究機関等の技術を活用することにより、民生先端技術の取り込みも図りながら、着実に早期装備化を実現する。

- そのため、早期装備化の障害となり得る防衛省内の業務上の手続、契約方式等を柔軟に見直すほか、運用実証・評価・改善等の集中的な反復を通じて、5年以内に装備化し、おおむね10年以内に本格運用するための枠組みを新設する。

防衛力整備計画（令和4年12月16日 国家安全保障会議決定及び閣議決定）P21

「新しい戦い方」を具現化するための取組

新しい戦い方を「考える」

早期装備化グループ

組織横断的・テーマ別に検討体制を組織

運用担当



政策担当 技術担当

【グループ例】無人アセット・AI（人工知能）
DX・次世代情報通信・宇宙

必要な民生先端技術等を「みつける」

ワンストップ窓口

防衛省のニーズをWEB掲載・提案は一元的に対応



みつけた民生先端技術等を「取り込む」

早期装備化スキーム

装備化までのステップを整理・専用の契約条項を設定

概念実証



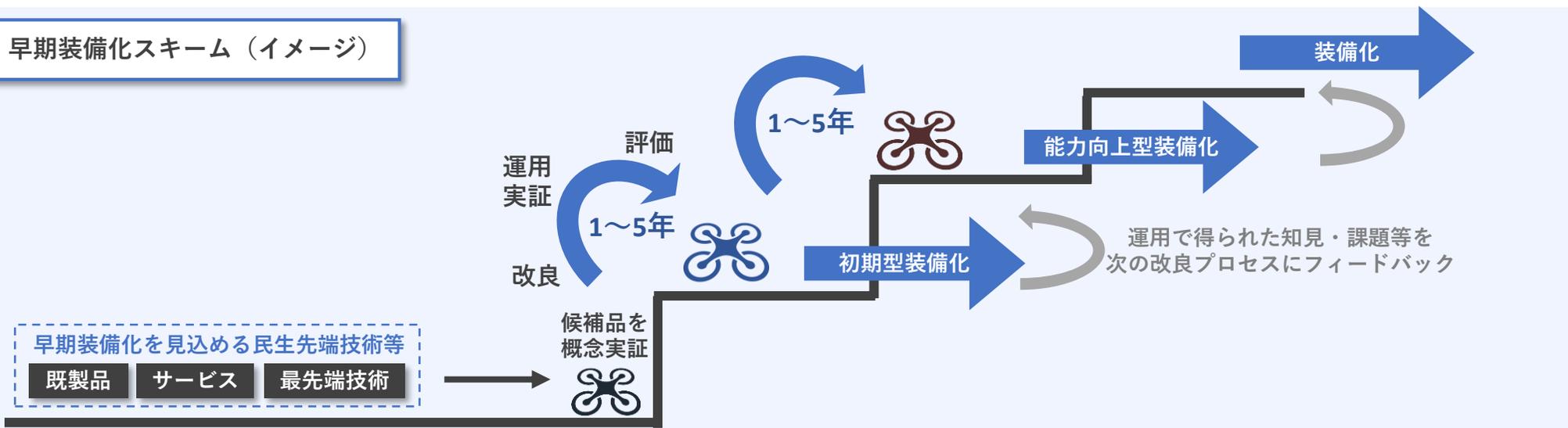
現場部隊等で試用して有効性等を実証

改良



既製品等を土台に防衛装備品向けに改良

早期装備化スキーム（イメージ）



※早期装備化スキームを適用する事業は、早期装備化の技術的課題、その解決策、要求性能、スケジュール等を具体的に確定させるため、実証を行う契約を行う必要がある場合や、改良、実証及び評価を一体的に実施する契約を行う必要がある場合に限る

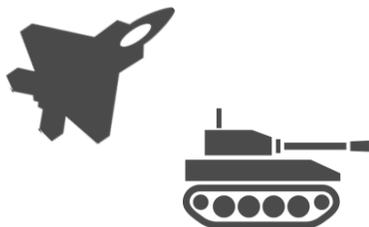
【詳細1】早期装備化契約特別条項のポイント

契約条項本文はこちら⇒



これまでの防衛省の契約の例（イメージ）

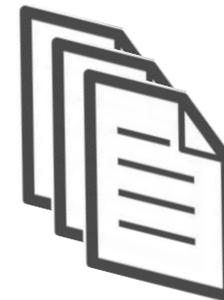
装備品等を納入



所定の基準やスケジュールに
即して履行状況等を検査・監督



事業段階ごとに契約



参考品購入 調査・分析



早期装備化契約特別条項

成果報告書の納入で可
（技術資料等）



随時、事業の進捗状況を
ヒアリング



問題が生じれば発注者・事業者が
協力して解決策を検討

ひとつの契約で
一連の事業を実施



取得等 / 実証 / 改良

【詳細2】 早期装備化スキーム

おおむね5年以内

【フェーズ1】
装備品
情報収集

【フェーズ2】
概念実証事業
早期装備化契約

【フェーズ3】
初期型装備品等の実現
早期装備化契約

【フェーズ4】
能力向上型装備品等の実現
早期装備化契約

【フェーズ5】
装備品等取得
売買契約等

概念実証事業のイメージ



- 実現性の検証
- 実証等を通じて部隊等の使用に供する際の課題等を検討
- 事業計画の検討
- 改良方法や、改良に要する想定工数及び期間、コスト、リスク等を整理

早期装備化事業（改良）のイメージ



装備品等としての要求性能を満たすために必要となる改良を実施



運用実証・評価

